

「主に感謝をささげよう」
詩篇 111 篇(宣教要旨)
説教者 A.Na

今日は、初めから終わりまで主への賛美が続くこの111篇を通して、主のみわざと主のご性質に目を留め、感謝と賛美を受けるべきお方を、会衆のみなさんすべてと共に見上げましょう。



【教会の一人一人が主にささげる感謝と賛美】

「ハレルヤ」…主をほめたたえよ！という賛美のことばでこの詩篇は始まります。

そして、「私は」と自覚的に感謝をささげる信仰者の賛美の心があり、それは、「心を尽くして」ささげる感謝であります(申 6:5)。

それは、「直ぐな人の交わり 主の会衆において」であり、心が真っ直ぐ神に向き(詩 7:10)、主のみわざを喜び(詩 107:42)、主の御前に住む(詩 140:13)、そのような主を信じる私たち信仰者の集りである教会の、その交わりの中で、一人一人が主に感謝をささげるのです。

【主のみわざは誰に与えられるのか】

「直ぐな人の交わり 主の会衆」である私たち(1節)、「主のみわざを喜ぶすべての人」(2節)、そして、「心に刻まれた人」(4節)。また、主を恐れる者、主に従い、主のみことばを求める信仰者たちに、主は食べ物を与えられます(5節)。

さらに主は、主に不従順であり、主の命令をことごとく破り、主のことばに聞かないイスラエルの民を、私たちを、変わらず愛し、ご自分の民としてくださり、主と共に生きるようにと、救いの道を用意してくださり、大きなみわざをなされます(6,9節)。

みなさんは、主が私たち一人一人になされてきた恵み深いみわざのすべてを自覚していますか？

【主のみわざとは】

「主のみわざは偉大。…」(2節)…主のみわざは、私たちの想像を超える偉大さをもっています。しかし、人間の限界ある思想・考え

の中では理解できないと分かってはいても、主のみことばを求め、学ぼうとするその時に、主のみわざが偉大であり、真の王がもつ威厳と威光をまわっておられることが分かります。また、王であられる主は義であり、人間にはない確かな正しさであります(申 32:4)。そして、主の義は永遠に、いつまでもあるのです。

5節以降を見ると、出エジプト記にある出来事を思い起こします…イスラエルの民は、奇蹟と思えるような主のみわざを見て、体験しました。主のみわざは、歴史の中にはっきりと見ることができます。

【主とはどのようなお方なのか】

主は情け深く あわれみ深い(4節)。

出エジプトのとき、主がイスラエルの民を救い出し、主ご自身が民と契約を結んでくださいました(出 34:6,7)。ですが、人はすぐに主から離れ、主の命令に従わず、自分の目に良いと思えることばかりをしてしまいます。しかし、主は情け深くあわれみ深い方でありご自分の契約をとこしえに覚えておられる義なる方です(ネへ 9:17)。

主の御名は聖であり 恐れ多い(9節)。

主の御名が聖であるということは、主ご自身がはっきりと示され(レビ 11:44、19:2、エゼ 20:41,36:23)、また聖であるがゆえに主の御名は賛美されます(出 15:11)。また、主こそが誉れと感謝を受けるにふさわしい方であり、はるか昔から、今もこれから先も変わりません。主の義が永遠に変わらず、主が聖であり、主を信じ主を恐れる私たちは、主に賛美と感謝をささげます。世々限りなく、永遠に主の誉れはそこにあります(イザ 6:3、黙 4:8)。

【結論】

日々与えられる多くの恵みを数え、それらすべてを与えてくださった私たちの主に、感謝をささげましょう。今日それぞれに主が語られたことばを思い巡らしつつ、1節のみことばが、自分のことばとなりますように。

主を恐れ、キリスト・イエスの十字架の贖いによって救われ、聖霊により信仰与えられた私たちみんな、全身全霊をもって、主に感謝をささげましょう。